

未来に生きて働く探究力と省察性の育成

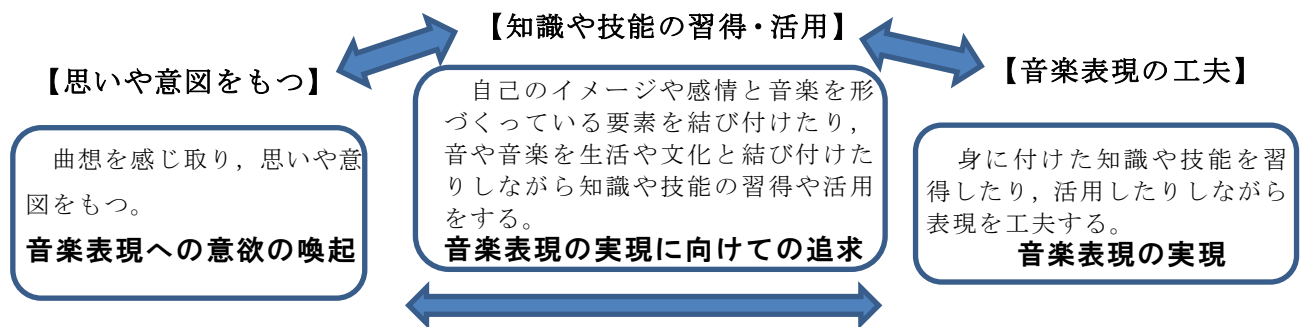
音楽科の本質

音楽科は生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する教科である。この資質・能力を育成することによって、音や音楽との関わりを自ら築き、心豊かな生活を営むことのできる人を育てる。資質・能力を育成するためには、多様な音楽を幅広く体験し、音楽に対する感性を働かせ、生活や社会の音や音楽との関わりを実感できるようにする。知識と感性を同時に働かせながら、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情を生活や文化と関連付けることを大切に指導していく必要がある。

音楽科の目標及び育みたい探究力と省察性

音楽科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する。
育みたい探究力	表現に対する思いや意図をもち、そのために必要となる知識や技能を習得し、思いや意図と、知識や技能を往還させ、仲間と協働して音楽表現を工夫する資質・能力
育みたい省察性	身に付けた知識や技能を自覚したり、仲間の表現と比べながら試行錯誤して表現を創り上げたりすることで、音楽表現の質を高める資質・能力

音楽科・領域における探究的な学びのイメージ



探究力と省察性を育む指導

生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するためには、創意工夫をした音楽表現をすべく探究する「探究力」と自らの探究を調整・改善しながら進めるための「省察性」を育む必要がある。そのために、次の3つに重点を置いて研究を進める。

【①しかけづくり】 探究的な学びを進める中で、子ども達が課題を見つけ、自分事として課題を解決していくためのしかけづくりをする。違和感を感じたり、壁にぶつかったりするようなしかけを意図的につくって授業デザインすることで、子どもが主体となって学びに向かっていくと考える。

【②振り返りの充実】 省察性を育むためには、自分の学びを丁寧に振り返る時間が必要となる。題材の途中や題材の終わりに学級全体や個人で振り返りをし、次の学習へと意欲をつなげ、自己変容を自覚できるようにする。「出来た（出来なかった）」「分かった（分からなかった）」等、授業を通して実感したことを発表したり、ワークシートへ記述したりすることで、自他の成長を見つめ、認め合い、自覚できるようにする。

【③価値付け】 子ども達が、自己のイメージや感情と音楽を形づくっている要素を結び付けたり、音や音楽を生活や文化と結び付けたりする考え方を働かせることができるようになるためには、教師の価値付けが欠かせない。子どもの発言内容を教師が価値付けして共有化することで、その考え方が子ども達の中に広がり、根付いていくようにする。

研究の評価

研究内容に基づいて取り組んだ授業実践の中での子どもの言葉や表現する音そのものをもとに、研究の成果と課題を明らかにする。授業での子どもの言葉、ワークシートへの記述、演奏等、子どもの表現物を用いて評価を行う。